

開催報告

2021年度ポケットセミナー（ACTR成果報告会）・大学連携に関する意見交換会について

京都府立大学教員と府内市町村のつながりの場づくりなどを目的に、2021年9月17日、オンラインにて10自治体の参加のもとセミナーを実施しました。まず、生命環境科学研究科の岩崎雅史准教授、文学部の横内裕人教授、公共政策学部の川勝健志教授より、大学の地域貢献の取り組みとしてACTRの研究成果をそれぞれ報告したあと、グループに分かれて大学連携について意見交換を行いました。参加者からは「他市町村と京都府立大学の連携について知ることができ、今後の大学連携にとっても参考となった。」「今後はいっそう積極的に連携を推進していきたい」といった感想をいただきました。



2020年度京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）パネル展示

当センターでは例年、府民の皆様へ地域貢献型特別研究（ACTR）の研究成果を広く知っていただくための企画として、府内各地において本学教員が自治体、NPO、経済団体などと連携し、地域課題解決に向けた調査研究活動に取り組んだ内容をわかりやすくポスターにまとめ、京都学・歴史館にて展示しております。



2021年12月1日から27日まで、22枚の2020年度ACTR成果報告のポスターを京都学ラウンジにて展示し、287人の方にお越しいただきました。

「精華キャンパスACTR（地域貢献型特別研究）成果発表」の開催について

2021年度に採択され、取り組んだ研究のうち、特に精華キャンパスにて積極的に取り組まれた先生の研究成果について発表する報告会を2022年3月8日に開催いたしました。

報告会では「京都在来ブドウ品種'聚楽'の復活栽培に向けた技術開発と新たな利用方法」や「京都府産宇治茶の安定生産と独自性確保に貢献する生育予測研究と宇治茶品種の遺伝解析」など計5テーマの研究について、2021年度においてどのような結果がみられたのかについて各々の先生方から発表いただきました。



ACTR成果報告

「海と森の京都の融合による文化観光拠点の形成ー舞鶴市東舞鶴地区と綾部市上林地区の文化資源の発掘と活用ー」 文学部歴史学科教授 横内 裕人

2022年2月23日（水・祝）～3月15日（火）より綾部市資料館にて「君尾山光明寺の至宝ー京都府立大学と探る綾部上林の歴史ー」の展示が開催されました。

光明寺は聖徳太子が開いたと伝えられる真言宗寺院で、綾部上林の宝を数多く伝えています。府立大学文学部はACTRとして2018年から光明寺の文化財調査を実施。府大生による展示品解説もありました。



開催案内のチラシ

「由良神社と由良艦」 文学部歴史学科准教授 岸 泰子

宮津市由良の由良神社で調査を行い、同神社が同じ名前の軽巡洋艦「由良」に設けられていた艦内神社に分霊したことを背景に社格を昇格させてきた歴史が明らかになりました。



開催案内のチラシ

「京の”ほかすモン”をいっどりに変えて新しい”京”を表現する」生命環境科学研究科教授 細矢 憲
「和紙と活版のこよみ」が研究成果として作成されました。



和紙と活版こよみ



KIRPについて

京都地域未来創造センター（KIRP）は、京都府立大学の「知」を活かし、地域の未来を創るための拠点として発足した地域に向けた総合窓口です。協働研究、受託研究等に関するご質問、ご相談があればお気軽にお問い合わせください。

075-703-5390
kirpinfo@kpu.ac.jp
<https://www.kirp.kpu.ac.jp/>
〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1-5
稲盛記念会館 1階

京都府立大学
京都地域未来創造センター
KYOTO INSTITUTE FOR
REGIONAL PROSPECTS



アクセスマップ



NEWS LETTER

24

2022.4

京都地域未来創造センター 新体制をご紹介します！

NEWS

■京都地域未来創造センター長 挨拶

センター長として、2期目の春を迎えることになりました。この2年間に私が感じたのは、当センターは学内外に次々と仲間が増えてネットワークが広がっていく、とても刺激に満ちたセンターだということです。

学内からは先生方が専門を問わず集い、学外からも京都府や府内市町村から派遣職員の方々が2年に一度、新たな仲間として加わってくれます。府内の市町村や企業、各種団体との包括協定締結や当センターの地域貢献を目的とした事業を機に、新しい人たちとの出会いと協働も生まれます。米国ポートランド州立大学CPSのように、いつも私たちに知的刺激を与えてくれる良きパートナーが海外にもいます。



川勝 健志 公共政策学部教授

今年度は昨年度に立ち上げたウェブサイトや人材育成事業（「場づくりLabo」）の充実を図ります。府内地域をフィールドに多様な人的ネットワークをさらに広げていくとともに、参加して頂いた地域の方々にぜひ楽しんで頂けるようなものをつくり上げていきたいと思っています。

【KIRP】2022年度 京都地域未来創造センター新体制

センター長	川勝 健志	副学長・公共政策学部教授	
副センター長	宮藤 久士	生命環境科学研究科教授	
統括マネージャー	上杉 和央	文学部准教授	
データサイエンスアドバイザー	岩崎 雅史	生命環境科学研究科准教授	
連携推進員（学部選出）	岸 泰子	文学部准教授	
	玉井 亮子	公共政策学部准教授	
	平野 朋子	生命環境科学研究科准教授	
	田中 俊一	生命環境科学研究科准教授	
シンクタンク（調査研究等）	企画調整マネージャー	駒寄 忠大	公共政策学部准教授
	コーディネーター/上席研究員	鈴木 暁子	
	研究員	今堀 誠弥	市町村研修派遣職員(京田辺市)
	研究員	前川 由依	市町村研修派遣職員(精華町)
	コミュニケーションデザイナー	永田 恵理子	

【受託研究・ACTR】2021年度調査報告 京都地域未来創造センターが関わった調査研究を以下の通り報告します。

「京丹後の海の魅力あるブランディングに向けた海水浴場の調査・分析およびデジタルアーカイブ化」(府大ACTR)

2021年度は水深、潮流、岩礁率について現地調査を行い、海水浴場ごとの特色を数値化しました。京丹後には15もの海水浴場がありますが、それぞれが異なる“顔”をもっています。

そのような豊かな多様性は他の地域では見られない京丹後ならではの大きな魅力です。

水深調査では当初の予定よりもたくさんのデータが集まりましたので、海水浴場ごとの海底3Dマップまで作成することができました。

2022年度には透明度、魚の分布、砂質などのデータも追加し、好みに応じた海水浴場が推薦されるようなシステムの構築を予定しています。

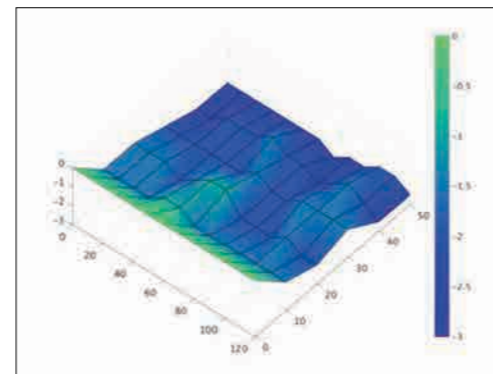
書きたいことはまだまだ山ほどあるのですが、紙面の関係もありますのでまた別の機会に。

数値データという客観的な尺度だけでなく映像からも京丹後の海水浴場の素晴らしさを“分析”しようと試みしたので、インスタ動画 https://www.instagram.com/ocean_sommelier_films/ も是非ご覧ください。

(体制：岩崎雅史(生命環境科学研究科准教授)・新庄雅斗(同志社大学理工学部助教)・藤原茂樹(公共政策学部准教授)ほか)



Instagram



箱石浜海水浴場の海底3Dマップ



青×緑に癒やされる竹野海水浴場

「京都市左京区・南丹広域振興局「地域文化財を活用した山間地区コミュニティの維持方策の研究」報告」(府大ACTR)



久多宮の町松上げ保存会

2019年度より実施してきた左京区を中心とする山間地域の伝統行事と地域コミュニティに関する調査がひとまずの区切りを迎えました。2021年度は南丹市美山の2地区も範囲に加え、より広域な形での調査ができたと思います。

残念ながら今年度も新型コロナウイルスの流行が収まらず、伝統行事そのものを調査することはできませんでした。ただ、それで調査が完全に止まったわけではありません。幸い、コロナの収束した期間もあったので、その間隙を縫いながら各伝統行事の保存会の方々への聞き取り調査を実施することができ、現状や率直な思いについて、聞くことができました。

さらに調査に参加したメンバーたちがオンライン上で集まり、各事例をふまえての課題や伝統行事/コミュニティ維持のためのキーワードになるような点を議論できたのも収穫だったと思います。

調査成果の一部については、『文化財の保存活用と地域コミュニティ』(京都府立大学文化遺産学叢書23)のなかにまとめています。京都府立大学附属図書館に配架予定のほか、一部はオンライン上にPDF公開する予定です。

(体制：上杉和央(文学部歴史学科准教授・センター統括マネージャー)文責、鈴木暁子(センターコーディネーター)・長田萌・今堀誠弥(センター研究員)・吉田泰基(京都市まちづくりアドバイザー)・宮下忠也(京都府地域アートマネージャー))



報告書表紙

「久御山町自治会活性化ビジョン策定業務」(久御山町受託+府大ACTR)

久御山町では、2019年度に策定した「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』(CCAC)構想」に基づき、高齢化、多様化した地域コミュニティの新しいあり方の検討が進められています。

その背景には、自治会加入率が年々減少するとともに、高齢単身世帯の増加や外国人労働者の増加、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響などから自治会活動の低下が危惧されていたことがあります。

このような中、青山名誉教授と生命環境科学研究科岩崎准教授を中心に「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』(CCAC)構想」に基づく町内会・自治会の活性化戦略ビジョンの提案」に係る調査研究はスタートしました。

調査研究には、青山名誉教授担当の大学院授業「キャップストーン」を受講する大学院生3名と、NPOで活動している本学卒業生1名が年間を通じて参加し、現地での町内会・自治会へのヒアリングやワークショップの開催、住民アンケート分析、先進地調査を実施し、そこから得られた様々な知見を「自治会活性化ビジョン」としてとりまとめました。

とりわけ、先進地調査の中で得られた「ICTを活用した自治会運営のモデル事業」に関する知見は、コロナ禍における新たな自治会活動のあり方として大きな可能性を感じさせられるものでした。

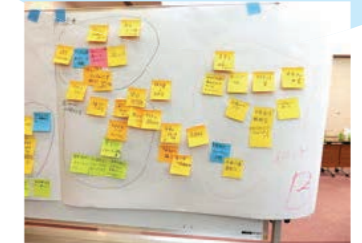
今回のACTRの成果は、研究協力者である久御山町行財政課に報告書として共有しており、同町の「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』(CCAC)構想」の今後の施策展開に向けた基礎資料として活用される予定です。

また、次年度以降は、今年度のACTRの成果を踏まえ、ICTを活用した自治会運営に向けた町内全38自治会のカルテ作成などに取り組むこととしています。

(体制：藤原茂樹(公共政策学部准教授)・青山公三(名誉教授)・岩崎雅史(生命環境科学研究科准教授)・今堀誠弥(センター研究員)・松原史(生命M2)・古池郁美(生命M1)・東佳佑(公共M1)ほか)



報告会の様子



ワークショップの記録

学生演習レポート

文化財をまちづくりに生かす(地域創生フィールド演習)

私たちは地域創生フィールド演習で宮津市の旧三上家住宅(重要文化財)を活用したイベントを行いました。施設を管理されているNPO法人天橋作事組の皆さんと何度も打ち合わせし、学生が企画提案した丹後ちりめんの展示を行いました。茶室の空間や江戸時代に使われていた灯籠などを使って様々なちりめん展示ができました。2日目は「宮津まちなみシンポジウム」として旧三上家住宅の活用提案やグループワークも行い、宮津高校の生徒や地元の方々から様々な宮津の魅力を知ることができました。

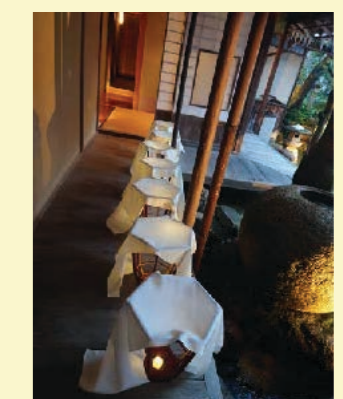
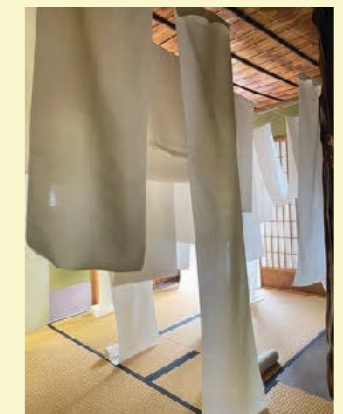
演習を通して私たちは、宮津の方々の思いや宮津の魅力など多くの気づきを得ました。中でも一番強く感じたのはよそ者の目線の大切さです。シンポジウムでは宮津の方々と交流することで、よそ者から見た宮津の魅力を知ることができました。

宮津の皆さんと大学生が力を合わせることで、宮津の魅力を引き出すことができると考えます。宮津の魅力をもっと広めることができるように、これからも宮津の皆さんと力を合わせていきたいです。

(2回生(当時)：公共政策学科/佐藤七実、環境デザイン学科/荒木ほのか、平山晴菜、平木優里)



宮津まちなみシンポジウムでの提案



丹後ちりめんを使った展示